

ABIC 国際社会貢献センター Information Letter

No.22 2008年7月

第20回理事会・第8回通常総会を開催 新会長に勝俣宣丸会長が就任	2
2007年度事業報告、2008年度事業計画	2
2007年度決算及び2008年度予算	6
役員等、個人正会員の入会	6
政府機関関連への協力 モロッコでの日本語教育	7
自治体・中小企業支援 クリエーション・コア東大阪にエストニア・ミッション来訪	8
教育 「ヨーロッパの今」関西学院大学・特別講座	10
「国際理解教育」での桃山学院大学との取組み	11
留学生支援 東京国際交流館春のウェルカムパーティー	12
私のボランティア活動 小さな一步	13
エッセー アドリア海の岸辺の国クロアチアから	14
新刊紹介 東南アジアに係わりある方に!『アジアの華人企業 南洋の小龍たち』	9
『グローバル経営と戦略的クオリティ・マネジメント』 ～日本発のグローバル・オペレーションズ・マネジメント～	15
事務局だより ABIC関西地区会員懇親会を開催	15
ABIC懇親会を開催	15

特定非営利活動法人 国際社会貢献センター (ABIC)
Action for a Better International Community

<http://www.abic.or.jp>

〒105-6106 東京都港区浜松町2-4-1
世界貿易センタービル6階 (社)日本貿易会内
Tel : 03-3435-5973 Fax : 03-3435-5979
e-mail : mail@abic.or.jp

[関西デスク]
〒552-0021 大阪市港区築港2-8-24 pia NPO 4階 413号室
Tel & Fax : 06-4395-1188
e-mail : kansai-desk@abic.or.jp

第20回理事会・第8回通常総会を開催 新会長に勝俣宣夫 丸紅会長が就任

6月3日、日本貿易会議室において第20回理事会並びに第8回通常総会がそれぞれ開催されました。議題として①2007年度事業報告及び収支決算、②2008年度事業計画及び収支予算、③任期満了に伴う役員の選任、④名誉会長の推戴が審議され、いずれも原案通り全員一致で承認されました。

会長として勝俣宣夫丸紅会長が選任され、佐々木幹夫会長（三菱商事会長）は名誉会長に推戴されました。副会長には、小島順彦三菱商事社長、清水順三豊田通商社長の二人が新たに委嘱されました。



2007年度(平成19年度) 事業報告

活動分野	主要事業	主な活動状況 (活動実績：活動実績：H19年度 延べ人数1,128名、活動会員数：H20年3月31日現在 1,776名 (H18年度末比118名増加))	活動実績 (延べ人数)	
			H19年度	H12～19年度累計
政府機関関連	ODA関連人材推薦、応募。 人材育成セミナー等への講師派遣	<ul style="list-style-type: none"> 海外での活動：JICA長期・短期専門家／シニア海外ボランティア、JETRO専門家、外務省任期付き職員（在外公館）、外務省領事シニアボランティアで18カ国、合計28名が活動。ベトナム、インドネシア、カンボジア、東ティモール、インド、イラン、シリア、ウズベキスタン、コスタリカ、グアテマラ、コロンビア、アルゼンチン、パラグアイ、モロッコ、チュニジア、ザンビア、豪州、米国への派遣。 国内での活動：JETROの輸出有望商品発掘事業の受託、中小企業基盤整備機構、近畿経済産業局の中小企業支援事業アドバイザーに31名、AOTS、OVT等での研修講師に21名、食品産業センターアドバイザーや高齢・障害者雇用支援機構への協力に4名等。 経済産業省、近畿経済産業局、関東経済産業局、JETRO、JICA、外務省、文部科学省等とのコンタクトを継続・強化し、公募案件の増える中で、推薦・紹介・受託の実績が、18年度比若干増加した。 JETRO入札案件（貿易投資相談Q&Aweb-site見直し等）への取組みのため、活動会員のチーム編成を行ったが、当該案件がこれ迄の限定公募方式から一般公開入札対象案件となり、年末に固まっていた入札時期もばらばらとなり、費用対効果の観点から取組みを断念した。 	91	502
NGO/NPO他 非政府機関	NGO等への人材推薦、活動強化への協力	<ul style="list-style-type: none"> NPO国連世界食料計画WFP協会、NPOメドゥサン・デュ・モンド・ジャポン（世界の医療団）、国連工業開発機構／東京事務所等に10名継続の他、新たにNPO産業技術活用センター（日本経団連のメンター事業を協同推進）に11名が登録して適宜支援。 	21	94
地方自治体・ 中小企業支援	自治体の国際化・ 中小企業の販売促進活動・ 海外進出・経営支援・協力 中小企業への直接支援	<ul style="list-style-type: none"> 年間業務委託契約締結先の地方自治体（千葉県／産業振興センター：6年目、和歌山県：2年目及び新規2契約、山口県／産業振興財団、山梨県／産業支援機構）との取組みが順調に推移し、特に和歌山県、山口県との取組み案件の伸びが顕著となった。 継続支援・協力先の地方自治体関係で、東京都ビジネスナビゲーター（5年目）9名、大阪府アジアデスク（2年目）2名、大阪府／東大阪市共同のクリエーションコア（5年目）5名の他、宮城県、埼玉県、神奈川県、愛知県、兵庫県の販路開拓、企業誘致アドバイザーで13名が活動した。新規では、東京都の来日外国企業対応の「東京ビジネスポイント相談対応業務要員」に3名、三重県企業誘致アドバイザーに1名採用された。 上記以外、青森県、岐阜県、岡山県、島根県、大分県に継続コンタクトを行い、新たに福岡県、愛媛県とのコンタクトも開始した。数県と、来年度の業務委託契約や企業誘致協力の話しを進めている。また、口コミ、ホームページ、会員経由等により、中小企業からの直接の支援要請も増加中。 	319	770
外国企業支援	外国企業の日本進出・販路開拓支援	<ul style="list-style-type: none"> 在京大使館、外国機関駐日オフィス、国際見本市関係業者への積極的なアプローチが実りつつあり、バイリンガル・ビジネス・アドバイザーの活動の場が大幅に増加中。 	41	129

活動分野	主要事業	主な活動状況 <活動実績：活動実績：H19年度 延べ人数1,128名、 活動会員数：H20年3月31日現在 1,776名（H18年度末比118名増加）>	活動実績 (延べ人数)		
			H19年度	H12～19 年度累計	
教育	大学及び 社会人 講座	大学・社会人 講座等での講座 実施	<ul style="list-style-type: none"> 37大学・組織へ講師派遣。年間講座数66、コマ数1,179を実施（H18年度52講座／769コマ）。 新規の立命館APUにおけるe-Business講座、アップグレードした一橋大大学院におけるプレゼンテーションスキル講座が新機軸の範疇だが、その他継続講座についても、講師の入替えや魅力ある講座の組立に注力した。 H18年1月に包括協定締結の立命館APUとの関係強化が進み13講座担当で200コマを超える、また、下半期からはAPUで受託の経産省／文科省案件「アジア人材育成プロジェクト」へも講座運営・講師派遣で深く関与することとなった。 関西学院大学との「連携協力協定書」（H15.12調印）、上記の立命館APUとの協定書に続き、桃山学院大学との間で「包括提携協定書」（H19.10）を調印。桃山大とは講座協力と共に中小企業の国際化支援及び人材教育に資する活動を推進していく。 文科省「ニーズ対応型中東研究」（一橋大中心。H18?22年度）に引き続き全面的に協力した。H19年度は、中東駐在経験者への意識調査が進められ、ABIC会員18名がインタビューに、また80名以上がアンケート調査に協力した。担当コーディネーターがアンケートの集計に協力した。 	371 (1,179 コマ)	1,697 (4,590 コマ)
	国際理解 教育支援 等	小中高校への 講師派遣 在日外国人児童 への日本語指導 等	<ul style="list-style-type: none"> 小中高校生や教職員への講義・講演会へ引き続き注力したが、残念ながら、未履修問題やゆとり教育の後退等から伸び悩み状態。 関西学院大学（関学）に加え青山学院大学との協力関係を進め、アメリカ理解教育の普及活動を主眼とした、アメリカ人留学生と日本の高校生を招いての「日米高校生の交流の集い」（一泊二日）を日本貿易会60周年記念事業の一つとして実施し、大変好評であった。米日財団からも補助金を得られた。また、H18年に関学との協働で始めた高大連携授業が、H19年度からは正課に昇格したが、引き続き側面支援を行った。 多摩地区の小学校における在日外国人児童への日本語指導を引き続き実施して評価を得たが、新規開拓には至らなかった。 	76	403
在日留学生 支援	在日留学生支援	<ul style="list-style-type: none"> 東京国際交流館において、引き続き日本語広場、日本文化教室に多数の講師陣を送ると共に、バザー、夏祭り、フェスタ等の催しにも協力。 H18年度から開始した国際交流館在住の留学生家族支援（健康診断、子女入園・入学手続き）が漸増し、大変感謝されている。 	118	488	
国際イベント 等	国際イベント等 への協力	世界陸上（大阪／8月）およびユニバーサル技能五輪国際大会（静岡／11月）におけるボランティア委員・語学ボランティアで多いに貢献し得た。	37	103	
その他活動・ 一般求人等	その他活動・ 一般求人等	<ul style="list-style-type: none"> 会員会社の社会貢献事業への支援を継続（三井物産推進の「在日ブラジル人子女教育支援」プロジェクト①学校支援事業：教育機器等の寄付、②教材事業及びコミュニティへのNPO等支援への継続実務支援。住友商事のベトナムでの日本語教育案件教師への人材紹介） 教育及び留学生関係で、継続契約の帝京大学／帝京平成大学／LEC大学への教授・講師、東京外国语大学／日本国際教育支援協会への職員、東海大学学生活動支援アドバイザー、新規に東京学芸大学付属中等国際教育学校、科学技術国際交流センターへの職員紹介を行った。 H14年度以降継続して、大学対抗英語ディベート大会のアンバサダーを務めた（8名）。 ABIC日本語教師養成講座教師に継続してABIC会員が活躍した。 日本貿易会内の業務効率化支援として、午餐会、ゼミナールの講演録作成や新聞クリッピングへの協力を開始。 	54	233	
		合 計	1,128	4,419	

年度毎活動実績（延べ人数）

年 度	人 数
H12年度（2000）	16
H13年度（2001）	212
H14年度（2002）	457
H15年度（2003）	587
H16年度（2004）	561
H17年度（2005）	694
H18年度（2006）	764
H19年度（2007）	1,128

活動会員関係	活動会員増強	● ABICの入会案内チラシを更新（裏面にABIC活動紹介・実績を掲載）し、社会貢献・ABIC委員会委員を通じて、各社OB/OGへの配布文書や退職時の一連書類に同封願った。また、活動会員へ電子データで配布して、知人への紹介を依頼した。
	活動会員スキルアップ	● 大学・EC等講座講師勉強会を7月17日に実施し、30名程が参集した。 ● H18年10月から開講した日本語教師養成講座を継続し、第二期、16名、第三期8名が終了証を手にした。第一期、第二期卒業生43名のうち約半数が、ボランティア主体で日本語講師を務めている。 ● H18年度から開始のIT研修（NPOオクトマン・シルバー・パソコン俱楽部が協力）を継続中。
	懇親会	● 東京及び大阪にて開催（東京：平成19年7月19日／メルバルク東京／約160名参加。 大阪：平成20年3月14日／三井物産ビル／約75名参加）

広報活動	● 活動会員、関係先向けの『ABICInformationLetter』を発行（年3回7/11/3月）。外部からの寄稿「ABICへのメッセージ」や会員からの随筆の掲載も始めた。 ● 日本貿易会の機関誌『日本貿易会月報』に毎号「ABICプラザ」のコーナーでABICの活動報告や活動会員のレポートを掲載し、ABIC活動のPR、紹介に努めた。 ● H18年度にABICパンフレットの邦文版・英文版を大幅改定したが、これに続き、順次ホームページの更新に着手し、ほぼ完成した。 ● 今年度も、（独）高齢・障害者雇用支援機構他の主催、厚生労働省/NHK後援の「高齢者雇用フェスタ2007」に、ABIC専用ブースを出展し来場者にABICの活動をPRした。初回の平成15年より参加。 ● 今年度も、東京国際交流館主催の春の新入館者歓迎会にてバザーを、また秋の「交流館フェスティバル2007」にて、ABICが指導している華道、茶道、習字コーナーを設けて来場者に対応し、またバザーを担当した。両イベントの目玉となっているバザーは、ABIC活動会員並びに社会貢献・ABIC委員会経由法人会員各社役職員から多くの品物を寄贈を頂戴してほぼ完売となり、売上金の殆どは、夏祭りの浴衣等の交流館の行事に役立てて貢うべく寄贈した。 ● 新聞報道：日経新聞（H19年6月20日）の「アジアの未来企画内・商社特集」の日本貿易会記事広告でABICの活動を幅広く紹介、南日本新聞（H19年6月25日）論点「かごしまっ子育成に一村一塾を」に紹介、読売/朝日/毎日/産経新聞関西版等（H19年7月4日）に和歌山県との取組み紹介（県知事発表記事）、日経新聞西日本版（H19年8月10日）に「関学との高大連携講座」の紹介。その他、日経新聞の「熟年海外へ飛ぶ」20回シリーズ（H19年5月21日～6月15日）に協力し、会員5名紹介し1名記事となった ● 雑誌等：プレーンズ誌（総合商社専門誌/H19年5月2日）の「商社OBなどの“活躍の場”として注目を集めるABIC」で2頁に亘り紹介、日経ビジネス（H19年6月18日号）に「現代の総合商社」（関学とABICの共著）の書評掲載、（独）高齢・障害者雇用支援機構月刊誌エルダー（H19年12月1日）の「NPO法人等活動レポート」に紹介、（財）統計研究会（笹川和平財団委託研究/H20年1月）の「団塊世代の就業と社会参加に関する調査と提言」にピアリング内容を紹介（全国図書館等へ配布の由）。その他、「日米高校生交流の集い」関係で、関学、青学の学報やホームページに紹介された。また、日経ビジネス誌（H20年3月17日号）に日本貿易会が広告を掲載し、その中でABICの活動を紹介。	
	事務局体制	● コーディネーター増員を検討したが、分野毎の見直し、交替にて対応できた。結果的にも効率的に機能し得た。総勢20名（昨年度比1名減員）。 経理・総務：宇佐見和彦 地方自治体・中小企業支援グループ：高廣次郎、佐藤徹（1名減員） 外国企業支援グループ：西山勝昭（交替） 大学・EC講座グループ：増田政靖、森和重、谷川達夫、布施克彦、猪狩眞弓、恩田英治（1名増員） 小中高校国際理解教育グループ：角井信行、川俣二郎（1名減員） 産学共同プロジェクトチーム：（宇佐見和彦、角井信行、川俣二郎）（入替） 留学生支援グループ：田中武夫、厚浦孝之→山田雅司（期中交替） アジアグループ／中国デスク：<空席>（1名減員） インドネシア・インド他デスク：橋本政彦 メコンデスク：篠崎尚 中南米デスク：（森和重） 関西デスク：藤原照明、大西稔男、田邊肇、赤田堅（1名増員） ● 関西デスク事務所移転につき物件を幾つか検討したが、未だ適当物件にめぐり合えず、H20年度の継続ワークとなった。
事務局関係	事務局運営	● 業務改善タスクフォース答申（H18年7月）への対応は完了した。また、新たな問題提起に応じた改善策を遅滞なく実施した。 ● 諸契約、規則・規程の整備はほぼ漏れなく進め得た。

会員状況	法人正会員	● 15社、1団体（H18年度同様：伊藤忠商事、稻畑産業、協同木材貿易、興和、JFE商事ホールディングス、住友商事、双日、蝶理、豊田通商、長瀬産業、阪和興業、日立ハイテクノロジーズ、丸紅、三井物産、三菱商事、日本貿易会）
	個人正会員	● 6名（H18年度比1名増） 池上久雄 寺島實郎 小島順彦 宮原賢次 吉田靖男 岡素之
	法人賛助会員	● 2名（H18年度同様：（有）イーコマース研究所、キーリサーチネット株式会社）
	個人賛助会員	● 313名（H18年度末比2名減）
	活動会員	● 1,776名（H18年度末比118名増）

2008年度(平成20年度) 事業計画

活動分野	主要事業	重 点 活 動 内 容	H20年度目標 (延べ人数)
政府機関関連	ODA関連の人材推薦、政府機関諸事業の受託 人材育成セミナー等への講師派遣	<ul style="list-style-type: none"> ● 海外での活動：JICA長期・短期専門家／シニア海外ボランティア、JETRO専門家、外務省領事シニアボランティア、外務省任期付き職員（在外公館）等の確保 ● 国内での活動：JETRO、中小企業基盤整備機構、近畿経済産業局等の中小企業支援等の各種事業への人材推薦・紹介及び受託案件の取組拡大、及びAOTS、OVTA等での研修講師派遣の受託増 ● 経済産業省、JETRO、JICA、外務省、文部科学省、文化庁、農林水産省等とのコンタクト維持・強化 	100
NGO/NPO等 非政府機関	NGO等への人材推薦・紹介、活動強化への協力	<ul style="list-style-type: none"> ● NGO、他NPOとのコンタクト強化 	20
地方自治体・ 中小企業支援	自治体の国際化・ 中小企業の販売促進活動・ 海外進出・経営支援・協力 中小企業への直接支援	<ul style="list-style-type: none"> ● 年間業務委託契約締結先の地方自治体（千葉県／産業振興センター7年目、和歌山県3年目、山口県／産業振興財団2年目、山梨県／産業支援機構2年目）との一層の関係強化 ● 上記以外の支援・協力先の地方自治体（東京都ビジネスナビゲーター6年目、大阪府／東大阪市共同のクリエーションコア6年目、企業誘致アドバイザー＝宮城県4年目、兵庫県3年目、三重県／和歌山県2年目、福岡県／島根県／愛媛県1年目、スポット支援＝数県）との一層の関係強化 ● 他地方自治体への積極的なPR推進、受託案件の獲得 	380
外国企業支援	外国企業の日本進出・販路開拓支援	<ul style="list-style-type: none"> ● 國際見本市関係業者とのコンタクト強化・拡大 ● 在日大使館、外国機関駐日オフィスとのコンタクト強化・拡大 	50
教育	大学および社会人講座等での講座実施	<ul style="list-style-type: none"> ● 実施大学・組織及びコマ数の維持・拡大、講師層の拡大 提案型講座の拡大 ● H18年1月に包括協定締結の立命館APUとの一層の関係強化（講座増、留学生勧誘協力等）。 ● H15年12月に連携協力協定書締結の関西学院大学との各種協力関係の維持・拡大（講座維持、国際理解教育協力等） ● H19年10月に包括提携協定書締結の桃山学院大学との関係強化（講座増、中小企業国際化・人材育成支援等） ● 文科省ニーズ対応型中東研究（一橋大中心に昨年度から5年間継続）に引き続き全面的協力 	400
	小中高校への講師派遣 在日外国人児童への日本語指導等	<ul style="list-style-type: none"> ● 講義・講演先の一層の開拓 ● 産学共同プロジェクトとして、関西学院大学並びに青山学院大学との協力関係を深め、アメリカ理解教育の普及活動を主体とした「日米高校生交流の集い」を昨年度に引き続き企画・実施し、また関学の高大連携授業へのを継続 ● 多摩地区の小学校における在日外国人児童への日本語指導の継続支援と新規開拓 	100
在日留学生支援	在日留学生支援	<ul style="list-style-type: none"> ● 東京国際交流館における、日本語広場、日本文化教室の一層の充実化及びバザー、夏祭り、フェスティ等の催しへの引続いての協力 ● 国際交流館在住の留学生家族支援（検診、通院、育児・健康・療養相談、転入手続き、入園・入学手続き等）の継続 	130
国際イベント等への協力 およびその他活動・一般求人等	国際イベント等への協力 その他活動・一般求人等	<ul style="list-style-type: none"> ● 大学対抗英語ディベート大会、東海大学生活動（チャレンジセンター）への継続支援・協力 ● 三井物産推進の「在日ブラジル人子女教育支援」プロジェクト①学校支援事業：教育機器等の寄付、②教材事業及びコミュニティへのNPO等支援への継続実務支援 ● 帝京大学／LEC大学等への教授・講師、東京学芸大学付属中等国際教育学校事務員、科学技術交流センター事務局長の人材紹介（更新継続）、EUIInstituteinJapan／幕張インターナショナルスクール事務局長の人材紹介（新規）など、教育機関関係への人材紹介への対応 ● 住友商事のベトナムでの日本語教育案件教師等への人材紹介（更新継続）や、ABIC日本語教師養成講座教師（継続）に加え、社会貢献に資する求人への積極的対応。日本貿易会の事務効率化支援・協力 	60
		合 計	1,240

(H19年度比 10%増)

活動会員関係	活動会員勧誘	●ABICの入会案内チラシ（活動紹介・実績付）チラシを更新し、社会貢献・ABIC委員会経由で各社OB／OGへの配布協力の継続要請、及びOB／OG会総会や退職直前の人事部説明会でのABIC紹介の機会を貰い会員勧誘を実施。また、活動会員へも引き続き知己勧誘を依頼
	賛助会員勧誘	●一進一退の賛助会員数の増加に注力
	活動会員 スキルアップ	●日本語教師養成講座の第四期を開講（H18年10月から継続） ●IT研修を他NPOの協力を得て、継続実施（H19年2月から継続）
	懇親会	●東京（7月）および大阪（3月）にて開催
法人会員関係	法人会員勧誘	●改めて法人会員増に向けて注力

広報活動	●活動会員、関係先向けの「ABICInformationLetter」を発行（年3回6／11／3月） ●日本貿易会の機関誌『日本貿易会月報』に毎号「ABICプラザ」のコーナーでABICの活動報告や活動会員のレポートを掲載 ●ABICパンフレットの更新 ●H19月に更新したABICパンフレットの英文版を活用して、在日外国政府機関・企業へのPRを継続 ●今年度も独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構他の主催、厚生労働省／NHK後援の「高齢者雇用フェスタ」に、ABIC専用ブースを出展し来場者にABICの活動をPR ●今年度も東京国際交流館が主催する「交流館フェスティバル」にてABIC活動紹介展示ブース等を設け、来場者にPR ●ホームページの一層の充実 ●新聞、雑誌等へのABICの露出に注力（マスコミへの積極的対応）
	●コーディネーター増員 ●関西デスク事務所移転またはスペース拡張
	●各種データの整理等、業務改善を進める ●諸契約、規則・規程の一層の整備

2007年度(平成19年度)決算 及び 2008年度(平成20年度)予算 (単位:千円)

科 目	2007年度 決 算 額	2008年度 予 算 額
I 収 入 の 部		
(1) 会 費 収 入	6,395	6,400
法 人 会 費	(4,720)	(4,720)
個 人 会 費	(1,675)	(1,680)
(2) 受 託 事 業 収 入	80,482	79,640
日本貿易会	(22,260)	(22,260)
そ の 他	(58,222)	(57,380)
(3) 補 助 金 収 入	500	500
(4) 雑 収 入	22	460
収 入 合 計	87,399	87,000
II 支 出 の 部		
(1) 一 般 管 理 費	16,890	18,400
(2) 受 託 事 業 費	58,830	65,002
(3) 器 具 備 品 等	2,093	3,505
支 出 合 計	77,813	86,907
収 支 差 額	9,586	93
前 期 總 越 金	9,581	19,167
次 期 總 越 金	19,167	19,260

役員等

(敬称略・就任順)

会 長 (新 任)	勝俣 宣夫	(社)日本貿易会 会長、丸紅(株) 取締役会長
名 誉 会 長 (新 任)	佐々木幹夫	前当センター会長、前日本貿易会会長、三菱商事(株) 取締役会長
副 会 長 (新 任)	槍田 松瑠 小林 栄三 加藤 進 加瀬 豊 小島 順彦 清水 順三	三井物産(株) 代表取締役社長 伊藤忠商事(株) 代表取締役社長 住友商事(株) 代表取締役社長 双日(株) 代表取締役社長 三菱商事(株) 代表取締役社長 豊田通商(株) 代表取締役社長
理 事 長	三幣 利夫	(社)日本貿易会 常務理事
常 務 理 事	名鏡 敬治	(社)日本貿易会 社会貢献グループ部長
理 事	寺島 實郎 東 直樹 藤山 知彦 林 則宏 松井 勇巳 三輪 裕範 渡邊 直哉 佐藤 弘晋	三井物産(株) 常務執行役員、(株)三井物産戦略研究所長 住友商事(株) コーポレートコーディネーショングループ長付執行役員 三菱商事(株) 執行役員 国際戦略研究所長 豊田通商(株) 人事部長 丸紅(株) 市場業務部副部長 伊藤忠商事(株) 調査情報部長 双日(株) CRS・コンプライアンス部長 (社)日本貿易会 理事 企画グループ部長
監 事	天野 正義	(社)日本貿易会 専務理事
顧 問	池上 久雄 吉田 靖男	元 当センター 理事長、元 (社)日本貿易会 常務理事 前 当センター 理事長、前 (社)日本貿易会 常務理事
参 与	宮内 雄史 野津 浩	元 当センター 常務理事、元 (社)日本貿易会 社会貢献グループ部長 前 当センター 常務理事、前 (社)日本貿易会 社会貢献グループ部長

個人正会員の入会

佐々木 幹夫氏（三菱商事(株)取締役会長、前当センター会長）2008年7月10日付

政府機関関連への協力

モロッコでの日本語教育

JICA シニア海外ボランティア モロッコ日本語教育

むらかみ まさゆき 村上 正幸 (元日本ビクター)

2007年3月、JICAシニア海外ボランティアの日本語教師としてモロッコへ赴任した。配属先は古都フェズにあるスィディ・モハメッド・ベン・アブドゥラ大学である。

同大学は全国に13ある総合大学の一つで、1975年に設立された。6学部3専門学校からなり、学生数35,000人、教員・研究員1,000人を有する国立大学である。その中の人文学部（学生8,000人、教員・研究員186人）で日本語を教えている。場所はフェズ市の中心部から少しはずれた見晴らしのよい所にあり、市内からタクシーで10分、歩いて30分の距離である。

当大学での日本語教育は公開講座であり、学生のほか少数ながら社会人も受講している。開講したのが2005年11月で、まだ2年半しか経っていないので、授業内容は初級段階である。この1年間は日本語教育を定着させることを主眼に行ってきた。

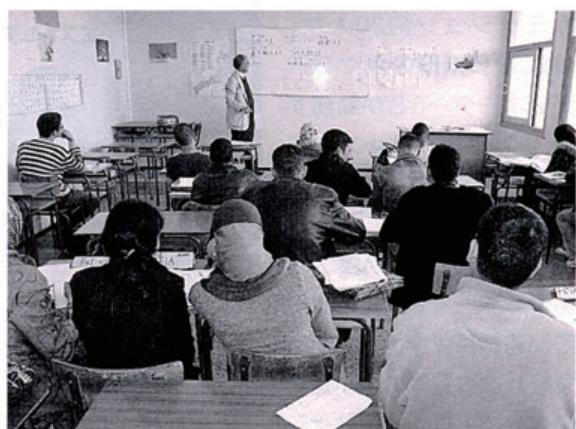
授業は1年生と2年生が2時間授業をそれぞれ週4回、3年生が1時間の授業を週4回行っている。学生数は1年生が35名、2年生が20名、3年生が5名で合計60名である。

受講生はいたってまじめである。東洋の言語は日本語以外教えていないので、東洋に関心を持つ受講生は皆、興味を持って受講している。また、インターネットが普及しているので、学生は日本の漫画、アニメなどから吸収した日本語をよく知っている。この国ではアラビア語が母語だが、昔からヨーロッパの影響を多く受けているため、学生の中には複数の外国語を話すものが多く、中でもフランス語はごく普通に話されている。

モロッコの夏場の外気は40度を超え非常に暑いが、冬は日本人にとってはそんなに寒くはない。しかし、モロッ



ベン・アブドゥラ大学の学生たち



授業風景

コ人にとっては寒いようで、暖房のない教室で、学生たちはオーバーを着込み、マフラーをして帽子をかぶって授業を受けている。

モロッコでもテロの危険性が時々伝えられ、カサブランカでは昨年、実際に事件が発生した。しかし、ここフェズではそういう危険は少ない。概してモロッコ人はおとなしい国民で、人に対して気遣いもするし、思いやりもあり、対日感情は良いという印象を持っている。

フェズはイスラム王朝の都としては9世紀以来の歴史を持つモロッコで一番古い町で、京都や奈良に似ている。その中心をなすメディナと呼ばれる旧市街は、坂道が多く、迷路のようになった狭い通路を挟んで店が並び、土日になると観光客でごった返す。思うままに迷路を行くと帰り道がわからなくなるので、いまだに私は、横道へそれ



ベン・アブドゥラ大学正門



広々とした大学構内

てもすぐメイン通りへ戻って、そこからまた出発するようになっている。

こちらでは貧しくても家族の絆が強く、親子の間だけでなく、兄弟の間でも小さな子供がもっと小さい子供の面倒を見ている光景をよく目にします。また、無駄なものは買わず、買ったものは大事にするという、日本人がいつの間にか失ってしまったものをこちらの人たちに教えてもらっている感じがする。

日本は「日の昇る国」、モロッコは「日の沈む国」であり、モロッコの人にとって日本は遠く、情報も少ないため、もっと日本について知りたいという気持ちが学生たちにはある。初めてのイスラム社会での生活で、何かと戸惑うことの多い1年であったが、これから残された1年は、できるだけ日本のことによく知ってもらえるよう心がけて授業を行っていきたい。

自治体・中小企業支援

クリエーション・コア東大阪にエストニア・ミッション来訪

クリエーション・コア東大阪 販路開拓コーディネーター 堀岡 太木生（元日商岩井）

2008年4月16日、エストニア経営者連盟(Estonian Employers' Confederation)のミッション約20人が、ABICから推薦の我々コーディネーター6名が勤務する「クリエイション・コア東大阪」(クリコア)を訪問した。

今回の訪問は、ABIC関西デスク藤原コーディネーターを通じ、EU研究では日本の第一人者といわれている神戸大学大学院経済学部久保隆教授(ABIC会員 元丸紅)より日本の中小企業クラスター研究のために、一行のクリコア見学を具体化したいとの依頼があり、実現したものである。

エストニアといえば、日本人には大相撲把瑠都関の故郷といった認識ぐらいしかないので実情だが、国土の広さは九州とほぼ同じ、人口もわずか約140万人で、バルト海に面した多くの島、そして湖と森に恵まれた美しい国といわれている。政治的には1991年に旧ソ連から独立し、2004年にNATO、EUに加入した新しい共和国である。歴史的に周辺大国よりの侵略を受けてきたが、首都タリンはハンザ同盟の主要都市であった。



クリエーション・コア東大阪の入り口前にて エストニア・ミッション一行と記念撮影(前列右端より上田東大阪産業振興センター・コーディネーター、藤原ABIC関西デスクコーディネーター、筆者、大井課長(大阪産業振興機構))

特筆すべきは、現在、同国の電力の90%がオイルシェールの火力発電でまかなわれており、一行からおみやげにオイルシェールの現物見本を頂いたのにはびっくりした。小国なりの自立の意識の高さがうかがわれる。一行は電力会社の役員、病院の会長、家具屋、IT関係など多士済々で、大変洗練され、教養豊かな方々であった。

一行は、予定時間を延長してクリコアを見学し、日本のこの種施設ではユニークな企業の展示場に大変関心をもった様子であった。また、その後の質疑応答では、中小企業の支援方法、運営、資金面の援助の仕方など熱心な質問を受け、日本の中小企業に学び、自国の発展を果たしたいと



会見 クリコアの技術コーディネーターが説明



館内見学

の強い意気込みを感じた。

クリコアは、大阪東部地域の東大阪市役所に隣接した独立行政法人中小企業基盤整備機構が保有する立派なビルの中にある。我々はここで東大阪市他大阪府下の中小企業支援事業を総合的に行っていている。(財)大阪産業振興機構、(財)東大阪市中小企業振興会、東大阪商工会議所、中小企業基盤整備機構など主要4団体がこの建物の中でそれぞれの得意分野を活かしながら活動している。

当施設の北館には大阪の代表的な中小企業200社の常設展示ブースがある。さらに商談スペース、企業のインキュベート・ルームも併設されている。ここでは商談会の開催、受発注マッチング、技術、金融、創業、販路開拓などABICからのコーディネーターをはじめ、専門コーディネーターが常駐し、中小企業からの相談と支援を行っている。一方、南館では产学連携支援部門が、15大学・1高専のリエゾンオフィスとの間で、中小企業の产学連携の斡旋・紹介を進めている。

また、会議室、講演会場などもあり、中小企業の人々に広く利用されている。その他、JAXA(宇宙航空研究開発機構)の事務所やその技術支援を受けて、開発中の東大阪発の人工衛星「まいど1号」の各種試験や組み立てを行うラボもある。

最近、海外でもクリコアの評判が高まっており、このようなミッションの訪問は年々増えている。因みに19年度は国



見学後の質疑応答

内外約40数件を受け入れたが、相手先としては韓国、中国を筆頭にアジアを中心に多数の国々からの来訪者があつた。その中で我々ABICのコーディネーターが大きく関わった案件としては、昨年、韓国産業団地公団一行17社26名が来館、41件の具体的な商談が盛大に行われたことである。

我々コーディネーターの役目としては、単に施設や展示場の見学に終わらず、企業との具体的な商談や企業のグローバル化に結び付くように努力を日々続けることである。皆様方も是非一度お越しいただき、大阪の中小企業に対するご理解を深めていただければと願い、ご来館を歓迎する次第である。

なお、最後になったが、本件のアテンドにあたっては、同じくABIC会員で東大阪産業振興センターの上田博晟(元トーメン)コーディネーターに多大な協力をいただいた。

新刊紹介

東南アジアに係わる方に! 『アジアの華人企業 南洋の小龍たち』

ひらの みのる
平野 實(国際関係学博士、ABIC会員(元三菱商事))著
白桃書房 A5判272頁 定価3,500円+税

華僑・華人に関連するビジネス書や研究書は数多くある。しかし、入門書的なものはそれらを蓋然的にしか捉えられず、彼らの成功譚を民族性や伝統文化に依拠させてしまうものが多い。また、専門的なものは1カ国に限定した研究であったり、特定企業に特化した分析であったりする。このため、華人企業に興味を抱く一般読者にとり、「帶に短し、櫛に長し」の状態であった。

実際、かれらが活躍しているアジアでは、華人ビジネスは多種多様の様相を呈している。本書は早稲田大学大学院アジア太平洋研究科の博士学位論文に一部改訂が施されたものであるが、①華人ビジネスには国ごとに異なりがみられ、それは各国の工業化政策・華人政策の異なるに起因すること、②華人企業には創業当初に芽生えた特徴が維持されることで、それぞれに全く異なる企業行動が見られるなどを体系的に理論付けている。筆者の30有余年の商社勤務体験が直截的ではないが加味されている点で、本書は類書とは一線を画すものとなっている。

南洋諸国に深く「落地生根」した華人企業は、日系企業が彼の地に進出した当時からの最重要パートナーであった。1997年のアジア通貨危機を克服した華人企業の存在は、チャイナ・プラス・ワンを模索する現在、ますます重要性を増しているように思える。彼らの企業行動を理解するに当たり、本書は、示唆に富む書としてお薦めしたい。



教育

「ヨーロッパの今」 関西学院大学・特別講座

やまもと やす お
山本 寧雄 (元ニチメン)

掲題の講座は、関西学院大学経済学部の田村教授並びに井口教授を座長として平成16年度から連続して開講されていて、本年は5年目になる。ABICからは講師陣に工楽誠之助(元 松下電器産業)、峯本晴輝(元 丸紅)の両氏と私が加わってスタートし、19年度から工楽氏に代わり、吉富茂隆(元 丸紅)、藤井吉郎(元 住友商事)の両氏が加わっている。

初年度のABIC講師の題目、工楽氏の「戦禍を超えてヴァイツゼッカー演説を考える」から始まり、本年度のABIC講師演題（合計10コマ）は、次のとおり。（敬称略）

- 西から見たヨーロッパ、東から見たヨーロッパ(2コマ) 峯本
- ポーランド及び中央・東欧の経済 (2コマ) 峯本
- スラブ圏ヨーロッパをめぐって (1コマ) 山本
- クロアチアからのレポート (1コマ) 山本
- 英国からみたEU (2コマ) 吉富
- トルコ周辺及び周辺諸国 (2コマ) 藤井

私は春学期のみを担当しており、この5年間、毎年同じ題目を続けているが、内容は毎年見直し、最新の情勢や情報を盛り込むようにしている。今年の新しい試みとして、EUインスティテュートからのシユミット教授の英語での講義が加わり、受講者各位に新たな刺激を与えていている。

私たちABIC講師陣に期待されていることは、講義を通じて商社マン・企業マンの経験が語られること、多彩な経験に裏打ちされた講師の人間的な魅力に受講者が直接触れられること、これらを通して学生たちに夢をもってもらうことである。また、講義の内容については、話の内容が具体的であること、相互の裏付けをして概念化をはかること、鮮度の高い話題であることなどである。

受講者は、全学部・全学年からの希望者と、社会人特別聴講者で、年度による変動はあるものの、150～350人ほどに上り、年々受講者が増えているのは嬉しいことである。また、講師の論点や経験を汲み取ろうとする熱心な受講者が多いので、講義のしがいがある。講義終了後に試験を実施する。答案用紙を採点するのは大変であるが、受講者の理解度や反応が窺えて楽しい作業にもなっている。また、講義の後で、受講者から講師に質問や相談が直接あったり、メールで意見や希望が寄せられることもあって、これも現代の学生諸君の考えの一端が窺え、楽しい。



世界各地でビジネス体験をもつ私たち企業OBと、緻密な学究の成果を披露される現役の先生方の協働が、これから世に出る学生諸君にいささかでもお役に立つものであることを願うと共に、この貴重な機会を築いて頂いた関学・ABICの関係各位にお礼を申し上げる。

【事務局注】

ABICは、関西学院大学（関学）との産学協定提携先として、2003年以来、いろいろなプロジェクトを関学と取り組んでいる。大学講座については、今回寄稿の「総合コース ヨーロッパ」のほか「総合コース アメリカ」と「現代総合商社論」、また、高大連携授業として大学生、高校生が一体となった夏季短期集中講座の授業にABIC会員を講師として派遣している。

昨年からは、関学と共に日米高校生交流の集いを実施している。今年も7月25日、26日に1泊2日で開催するが、高校生の人気も高く、高校生の応募が当初募集人員をはるかに超えて、定員調整を行っているところである。本年は夏季集中講座をよりレベルアップすることを目指してABIC会員と大学生が高等学校に出向き、協働して出前補講を実施中である。講座で採用されるディベートを高校生が大学生の中に溶け込めるようにアシストしている。

上記、総合コース ヨーロッパは、受講者が今年も300人を超える人気講座となっており、山本氏の講演は、最新の東欧情勢が聞ける注目の講座である。

山本氏は、現在クロアチア・ザグレブに在住で、ザグレブ経済経営大学等にて講師を務めるなど様々な活動をしている。（本誌P15参照）

（関学との協定担当 シニアコーディネーター 宇佐見 和彦）

教 育

「国際理解教育」での桃山学院大学との取組み

ふじわら てるあき
藤原 照明 (関西デスクコーディネーター、元丸紅)

ABIC関西デスクでは、会員の諸外国での駐在経験や知見を活用する活動の一つとして、大学での講座や中小企業支援と並んで小中高校生を対象とした国際理解教育を掲げている。これまでに数多くの実績を積み重ね、今後、更に広がりを見せる状況下にある。

今般、桃山学院大学との連携により、従来行なっている国際理解教育とは趣きを異にした外国人学生を対象にした「ビジネス・ツーリズムプログラム」に取り組んだ。即ち、桃山学院大学のカナダにおける提携校であるMedicine Hat College（アルバータ州）から19名のカナダ人学生を日本に招聘し、日本を理解してもらおうという同学に取っても初めての国際理解教育の試みで、いわば逆張り国際理解教育であるところに特徴がある。

カナダ人学生一行は、本年5月初旬より約3週間、大阪中心部の宿舎に滞在し、日々電車を乗り継ぎ約1時間掛けて泉北（泉北高速泉中央）にある桃山学院に通うなど、日本人学生と全く同じ通学方法をとった。我々ABICでアレンジした①ABIC会員の英語による日本経済の現状（野本直記氏、元丸紅）や薄型テレビの生産（深川泰博氏、元松下電器産業）に関連する講義、②大阪府商工労働部の元職員による大阪経済の重要性及びカナダ経済規模との比較、③カナダ領事による講演、④Panasonic Center大阪とトヨタ自動車工場見学、及び桃山学院大学とJTBで手配された京都を中心とした日本文化の紹介等々、3週間をフルに活用した日本の経済と文化を知る国際理解の機会を満喫した。

このプログラム終了後に実施したアンケート調査では、カナダ人学生は大いに満足し、数名は早速ながら日本への留学を希望するなど極めて高い効果を挙げることができた。

また、カナダ人学生を受け入れた桃山学院大学側の学生も各種交流会を通じ大いに刺激を受けたことは確実であった。その効果は、最終日の空港見送りの場でも傍目にも明確に現れるなど、同学の日本人学生にも大きな効果が有ったものと確信している。



Panasonic Center大阪を見学（筆者右端）



エドワーズ カナダ領事の挨拶

同学では、今後もこれを機会にヨーロッパ等の提携校の学生を招聘し、国際理解教育の幅を広げたい意向で、昨年来、同学と包括連携契約を締結しているABICとしては、今後の対応にも全力を挙げていく所存である。

なお、同学とは、2002年12月の関西デスク開設直後の経営学特講（日本語による半年15コマ）を皮切りに、現在では、①外国人交換留学生や大学院生を対象とした全て英語による半年15回の経営学特講、②国際ビジネス講座、③国際経営論、④大学院での日中連携講座や中国語講座等々（毎年約70コマ）を担当するなど、同学の学長、副学長のご理解と協力を得て、今後、取り組みはますます拡大するものと思われる。

他方、同学を通じ和泉市を経由しての中小企業支援も模索中であり、関西在住会員の皆様方の活動への参加を是非お願い致したく、興味をお持ちの方は関西デスクまでご連絡いただきたい。



講義する野本会員



講義する深川会員

留学生支援

東京国際交流館春のウェルカムパーティー

5月17日、東京国際交流館では百数十名の新入館留学生を迎えて、恒例の春のウェルカムパーティーが開催されました。野外イベントが多いため心配されていた天候は、朝の曇り空から次第に晴れ上がり、参加者600名を超える盛り上がりを見せました。同館中庭の正面に設置された舞台では各国留学生による、ダンス、音楽、空手など自國文化紹介などのパフォーマンスが終日披露され、その周りには各国自慢のエスニック料理の屋台が並んで手料理の販売で賑わいました。パーティの企画運営は、会館職員の指導の元に、留学生の生活支援の役目もになって交流館に居住しているResident Assistant (RA) と呼ばれる日本人学生たちが中心になって進められました。

ABICはバザー、体験野外茶道教室、体験書道教室を提供し、講師の先生、会員やボランティア、担当コーディネーターが参加して留学生や家族、その他の来館者との交流を深めました。

中庭に畳を敷き詰めた茶室には来客が引きもきらず、参加者は90名に及びました。茶室を囲んで置かれた緋毛氈敷きの床机には参加希望者が並び、次々とお茶室に招き入れられては茶菓接待だけでなく自分でお茶を点てることも楽しみました。

三方をテントで囲んだ体験書道教室も大盛況で、二度、三度のリピーターも入れると参加者は50名を超みました。用意された6脚の椅子の空く暇もなく参加希望者が押し寄せ、レベルに応じて提供されるお手本を見、講師の先生の指導をうけながら制作に夢中になり、その場ですぐに展示される自分の作品の鑑賞も楽しんでいました。

バザーでは、110を超えるABICの支援企業、及びその社員の方々、並びにABIC会員から170口を超える荷物で送られた品物をご寄贈いただき、その売り上げは24万円を超えました。連日の仕分けや値付け作業と、当日の販売にはRAの学生から多大の協力がありました。売上金の一部は



バザー

学生の要望に沿い、ミャンマーと中国の自然災害被害者の方々へ見舞金として贈り、残りは従来どおり留学生の支援費用にあてられます。ご支援いただきました皆様に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

(ABIC留学生支援グループ)



体験空手教室



体験書道教室



体験茶道教室

私の
ボランティア活動

小さな一歩

みやた けいこ
宮田 恵子 (ABICボランティアチームメンバー)

「私にできることなら…」と軽い気持ちで始めたボランティア活動。なかでも、東京外国語大学留学生支援の会(支援の会)での無償のボランティア活動は6年目になりました。

支援の会は会員からの会費を主な資金として、各国からの留学生や研究者、そしてその家族に学習面、生活面あるいは経済的な支援をするとともに、相互理解のために交流の場を提供し、友好親善を目的とした活動もしています。

縁あって、2002年に私は支援の会の会員となり翌年からボランティア活動に参加しました。これまで、ボランティアとして週に一度、大学に出かけ留学生の様々な相談にのったり、幹事として月に一度の幹事会に出席してイベントの企画や運営にも携わってきました。また、会が企画した見学会等にも留学生を引率して出かけるなど多くの行事にも関わってきました。ホームステイやホームビジットを我が家でも引き受け、留学生の「日本のお母さん」に早変わりすることもありました。

支援の会では活動経費の殆どが自己負担なので、大学までの交通費等、時間やお金も随分費やしてきました。時には対応に苦慮する事もあり、正直なところ、ボランティアの難しさを痛感することもありました。それでも、活動を通じて学ぶことも多かったと感じています。その一つは「日本語」の難しさに気づかされたことです。どのような言葉を使ったら誤解を与えるに適切な日本語で留学生と交流することができるかと、私自身の日本語を見直すこととなりました。そしてこのことはABICの「日本語教師養成講座」第2期を



育児相談(左から二人目筆者)



育児・健康相談サポート(中央筆者)

受講するきっかけともなりました。

またこの間、実際に多くの留学生たちと出会うことができ、専業主婦としての日常生活から離れ、社会参加の一端ともなったと感じています。さらに支援の会の幹事でもあるABICコーディネーターの田中武夫氏を介して、2007年1月からABIC活動会員としてボランティア活動の輪を広げることが出来ました。それは東京国際交流館で留学生家族の妊娠、出産、育児健康相談や入園・入学、そして留学生の療養指導の通訳サポートなどをすることになったことです。

「留学生家族の健康相談」には保健所から専門の職員が来てくださいり、子育て等の相談に親切に対処してくださいます。自分の国にいても出産や育児には大きな不安が付きまとうものです。その意味でもこの活動は本当に有意義なものと実感しています。いつも温かな雰囲気に包まれ、私は乳幼児たちの健やかな成長を願いながらこの活動に参加させていただいている。

さらにABICの「日本語教師養成講座」を受講したこと、2007年8月からは週に一度夜、新宿区にあるNPO団体で外国人小中学生の学習支援のボランティア活動にも参加しています。その上、この4月末から、東京国際交流館居住の留学生及びその家族を対象として

日本語を指導するABIC「日本語広場」の講師として新たな活動の場に加わることになりました。

私のボランティア活動は本当に小さな一歩にすぎませんが、家族の協力の下、そしてこの活動で接する人々の笑顔に支えられ、これからも小さな一歩を楽しみながら続けていきたいと思っています。



留学生2名に対する定期療養指導サポート
(左から2人目筆者)



入園サポート(中央筆者)

エッセー アドリア海の岸辺の国クロアチアから

やまもと やすお
山本 寧雄（元ニチメン、クロアチア・ザグレブ在住）

クロアチアの首都ザグレブに移り住んでちょうど10年になる。クロアチアはここ数年、日本のTVの旅番組や新聞雑誌の特集、それにいろんなスポーツでずいぶん紹介されるようになったが、まだまだよく知られていない。しかし、アルプスの山塊がなだらかにパンノニア平原になるところ、ドナウ河の右岸、そして何よりもアドリア海の岸辺の国、といえば、鮮烈なイメージを持っていただけるであろう。クラヴァト（ネクタイ）という名詞の由来する国で、ダルマチア犬の故郷、そしてマルコ・ポーロが生まれたといわれている国でもある。

クロアチアは、旧ユーゲースラヴィアから1991年に分離独立した新生共和国である。独立に伴うセルビアとの戦争でかなり疲弊したものの、戦後処理が進んで美しい景観と町並みが回復するにつれ、今では世界中からの観光客が急増し、経済も回復途上にあり、一人当たりGDPは1万ドル近くになっている。人々は概して知的かつ穏やかで、治安は良く、親日家や日本の様々な文化に関わりをもつ人が多くいる。

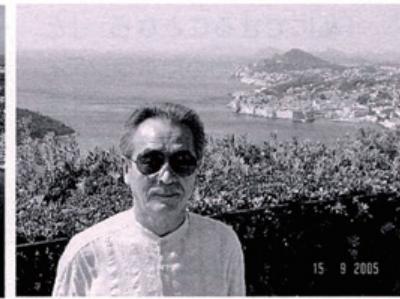
今年、2008年1月にクロアチア政府観光局の東京事務所が六本木に開設され、3月にはメシチ大統領が訪日するなど、両国の関係が広がっている。2010年と想定されるEU加盟に向けて、ブリュッセルとの交渉が最終段階を迎えており、夥しい数の法律や制度の改変が進んでいる。

私の現在の主な活動分野は次の通りである。

- ①ザグレブ経済経営大学での講師（日本研究概論）
- ②同大学日本センターの事業として、クロアチア企業の支援と企業へのカイゼン・マネジメントの導入支援
- ③クロアチア観光業（ザグレブ経営大学観光学部での



アドリア海によく見られる古い町並み



ドゥブロヴニク旧市街と筆者

講義、地域案内等の日本語訳と編集、政府観光局・地域観光協会・観光会社・ホテル・レストラン等への協力、ツアーの企画助言と同行、日本のTV番組や新聞雑誌のクロアチア特集のための取材のコーディネート）

④クロアチアでの地域起こしや町起こしの支援等

当地のTVコマーシャルへの出演なども再三あり、これらすべてが互いに好ましく影響しあい、好循環をもたらしているように思われる。また、卒業生たちが社会に出て色々な分野で活躍を始めており、私も仕事を通じて接する機会がよくあるので、成長していく姿を見るのは楽しい。

2004年から毎年5月頃に日本を訪れ、関西学院大学でヨーロッパ講座の一部を担当しているが、日本の学生たちの姿に親しく接して、クロアチアの学生たちと比べてみるのも興味深いものがある。

私は、クロアチアの永住権をとっているので、心身が動く間はクロアチアと日本の間を往復しながら現役として多くの人々と交わり、社会に関わって行きたいと念じている。学生時代や仕事を通じた仲間たちが、三々五々、あるいはグループを組んで大勢がクロアチアを訪ねてくれ、大いに満足してもらっている。美しいクロアチアへ皆様お誘い合わせのうえ、どうぞおいでください。



首都ザグレブの中心部と丘（後方）
手前の建物は中央鉄道駅、その後方は中央公園（美術展示館などがある）、そしてその奥右手の大聖堂を中心に旧市街が広がっている



ドゥブロヴニク旧市街（世界文化遺産）
アドリア海の真珠と呼ばれている



プリトヴィツェ湖国立公園（世界自然遺産）
大小16の湖が標高差150mほどで段々に連なり、それらを結ぶのは無数の滝と小川。一番高い湖は標高635m、夏でも涼しく静謐な楽園。

新刊紹介

『グローバル経営と戦略的クオリティ・マネジメント』 ～日本発のグローバル・オペレーションズ・マネジメント～

みやがわ まさひろ
宮川 正裕（中京大学大学院ビジネス・イノベーション研究科教授、ABIC会員（元 伊藤忠商事））著
同文館出版 定価3,500円+税



グローバル化が進展する中で、資源高・環境問題など企業を取り巻く経営環境は日々変化しており、企業は一層困難な経営の舵取りを迫られている。また近年、食品の質や安全の軽視による事件や不祥事、自動車・家電等の製品欠陥による事故やリコールが多発して大きな社会問題になっている。

本書は、こうした今日的課題に対する問題意識に発して、グローバルな視野で新たな経営環境に適応するための環境適応戦略と、経営や組織の質及び個人の資質を向上させるクオリティ・マネジメントの戦略性をテーマとしている。理論だけではなく、スタンフォード大学の協力を得て実施した在米国日系製造企業の調査結果を踏まえて、「品質を重視する施策を徹底して実践している企業ほど業績成果を上げている」事実を明らかにし、グローバル市場で競争優位性を築く経営戦略の成功事例を挙げて、わかり易く述べている点も本書の特徴である。

著者の中京大学大学院ビジネス・イノベーション研究科教授の宮川正裕氏は、ABICの会員でもあり、伊藤忠商事や自動車部品メーカー勤務を通じて自らオペレーションズ・マネジメントに永年携わって来た経験を有する。

日本企業の海外展開について述べた著書は多いが、グローバル経営とクオリティ・マネジメントの戦略性に着目し、中国や米国で事業展開をする日系企業におけるリサーチ結果を踏まえて日本発のグローバル・オペレーションズ・マネジメントについてまとめた本は少なく、研究者のみならずビジネス関係者への示唆に富んだ書として注目される。

事務局だより

ABIC関西地区会員懇親会を開催

3月14日17時30分から大阪三井物産ビル「季膳房」において、関西地区会員を中心とする懇親会を開催しました。55名の参加者があり、日本貿易会天野専務理事（ABIC監事）の開会挨拶の後、活発な交流が行われ、懇親を深めました。



天野日本貿易会専務理事
(ABIC監事)の挨拶、乾杯発声



ABIC懇親会を開催

7月8日18時からメルパルク東京において毎年恒例の懇親会を開催しました。役員、正会員、活動会員並びに日本貿易会関係者など160名を超える参加があり、勝俣新会長からの開会挨拶に引き続き、三幣理事長の活動報告、乾杯発声の後、活発な交流、懇親が行なわれ、盛会のうちに終了しました。



勝俣会長 開会挨拶



三幣理事長乾杯発声



法人・個人正会員並びに法人・個人賛助会員各位

ABICの活動にご賛同下さり、日頃のご支援と共に資金的援助を賜りまして、ABIC一同心より御礼申し上げます。ここに皆様のお名前を掲載させて頂きます。

正会員

団体・法人（16社）〈社名五十音順〉 〈10口〉 (社)日本貿易会 伊藤忠商事(株) 住友商事(株) 双日(株) 豊田通商(株)
 丸紅(株) 三井物産(株) 三菱商事(株) 〈4口〉 (株)日立ハイテクノロジーズ 〈2口〉 稲畑産業(株) 長瀬産業(株)
 阪和興業(株) 〈1口〉 協同木材貿易(株) 興和(株) JFE商事ホールディングス(株) 蝶理(株)

個人（7名）〈敬称略・入会順〉 池上久雄 寺島實郎 小島順彦 宮原賢次 吉田靖男 岡素之 佐々木幹夫

賛助会員

法人（2社） (有)イーコマース研究所 キーリサーチネット(株)

個人（326名）〈敬称略・氏名五十音順〉 〈5口〉 北條弘司 〈2口〉 荒木道介 岩本洋之 上田博晟 遠藤寿一
 及川洋 小寺真行 鬼山敬邦 川俣二郎 久佐賀義光 公平伸夫 笹井英毅 志岐眞弓 千田英樹 高廣次郎
 多田勝彦 田中武夫 玉木興 綱川渡 東宮邦雄 原芳道 坂東寛隆 曰野勝子 福田洋子 藤井眞 前田耿史
 牧村慎臣 三木紀元 柳沢信義 八幡暁彦 山田芳正 山本一良 山本寧雄 〈1口〉 会川精司 相原正和
 青木一夫 赤田堅 浅田道明 芦刈茂樹 芦田均 東光子 安達晋 厚浦孝之 安福哲一 阿部恭一 安部忠
 阿部徹 阿部雅志 荒尾紀倫 有田五郎 有田捷一 居内律治 庵原專三 伊賀豊和 伊賀山欣也 猪狩眞弓
 生島幸哉 池崎元彦 石川清 石田錠二 石束吉孝 石橋満 伊東孝之 伊藤輝雄 伊東泰 稲永丈夫
 稲本卓三 井上行芳 今井宏 今井正孝 今田利征 上田勲 上野和郎 上野日出雄 上森義美 宇佐見和彦
 薄葉徹郎 宇田定三 内田康治 漆崎隆司 江藤茂雄 榎本盛明 榎本啓一郎 江幡吉信 海老原茂
 大久保浩司 大久保徳衛 大浩義之 太田宏 大塚昭雄 大西稔男 大道豊彦 大森日出太郎 岡田一茂
 岡田恵二郎 岡部紘 岡部好夫 岡本靖彦 小川富美恵 小川晴久 小口良喜 小國輝雄 小野勝 小畠克之
 小船井達夫 表尚志 恩田英治 角井信行 風間誠 梶原昭次 片岡紀二 勝部實 加藤正芳 加藤克
 金井好弘 嘉根俊治 金子康之 金子義久 辛島洸 加輪上敏彦 川副和之 川西勇夫 川村哲也 川本恒彦
 勘山悟 岸達也 喜多創平 吉川和夫 木村好作 木村秀志 清宮信男 久木田修司 楠井裕章 櫻座武敏
 久保田堅一 久保田隆 隅元泰弘 倉又則夫 黒岩浩一 黒岡誠一 久山周孝 国分利敬 児玉正博 古園井良
 小畠孝治郎 小林庄右門 小峯征三郎 小室洋三 近野治夫 齋藤勝吉 酒井栄造 坂井啓治 酒井邦展
 坂本俊寛 崎貢 笹岡治男 佐藤徹 佐藤宏 佐藤充宏 佐藤隆二 佐良木忠男 沢田修吾 澤田史郎
 澤田豊治 七字道彦 篠崎尚 島悠紀夫 白土茂雄 須賀徹 須賀直比古 鈴木孝尚 鈴木紘司 関晃典
 関統造 関米勝 関本喜茂 曽我典夫 園田真一 醍醐俊明 高木俊彦 高木裕昭 高崎浩敏 高嶋宏臣
 高嶋正文 高田維有 高田弘 鷹津俊一 高梨和彦 高柳貞男 田島一靖 立石揚志 田中昭彦 田中功
 田中剛 田中稔也 田邊肇 田邊正明 谷川達夫 田内裕 丹治敬 淡野武司 千野滋樹 千原長美 塚谷正彦
 辻萬亜雄 津田道夫 土屋英五 都築秀之 坪井哲夫 坪井雅敏 寺澤昌敏 遠山晃 戸川順治 富島紘一
 友國洋 中倉弘紀 中込喜雄 中島幸太郎 中島隆一 中園智子 仲田慎太郎 永田明司 中西孝之 中西康孝
 中野英俊 中野正義 永峰千年 中村昂 中村紀雄 中村恭紀 中山文磨 西澤俊一 西山勝昭 西山慈恩
 新田充成 野口順一 信森勝治 野村哲三 則満洋祐 萩谷敦 橋本裕一 橋本文男 橋本政彦 橋本勝
 蓮沼恒郎 畠宏幸 花澤和郎 羽生憲夫 浜田元雄 林常介 日笠徹 菱川治 日比野圭三 平田一男 平野潤
 平野實 廣田滋 廣田幸男 福井隆治 福岡健 福田繁 福ノ上敦 藤井俊彦 藤井希祐 藤井則雄 藤川一弘
 藤田敬子 藤田卓 藤田政晴 藤田幸雄 藤原照明 布施克彦 星出拓 細野良敦 前田喜章 前田祥治
 前田直明 増田孝次郎 増田政靖 増本光男 松井清治 松浦義則 松岡壽夫 松下敏明 松本信司 松本時男
 三上亞佐橘 水川久夫 翠政之 溝渕弘也 三栗敏 南賢 峯本晴輝 宮内貴正 宮川正裕 宮崎善嗣
 村岡信明 村瀬和男 村瀬省三 村林栄彦 森和重 森健 森田聰 森達也 森松直毅 安田勤 矢野清一
 矢野裕明 山内幸雄 山岸正雄 山口健 山田雅司 山本啓二 山本博勝 湯浅康生 萬木寛 横井正豊
 横田淑子 横溝肇 横山泰雄 吉川正男 吉田紘 吉田裕 吉富茂隆 李栄 渡邊晴郎

賛助会員入会のお願い ABICの活動の一層の拡大に向けて賛助会員へのご入会を是非お願い申し上げます。

活動会員 1,805名

(2008年6月30日現在)